

山形県天童市で RESAS（リーサス）を活用した政策立案ワークショップを開催しました

令和3年4月
内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局
内閣府地方創生推進室
経済産業省東北経済産業局

山形県天童市にて、地方創生や産業政策に携わる職員等を中心に、「地域経済分析システム（RESAS）」を活用した政策立案ワークショップを下記のとおり開催しました。

天童市は、今年度、東北経済産業局の「RESASを活用した施策立案支援事業」による支援を受けて、RESASの活用に取り組んできましたが、この度、経済地理学の専門家である東京大学大学院総合文化研究科の松原宏教授の協力を得て、天童市の産業政策を題材にしたワークショップを開催しました。

市職員による分析発表や参加者の意見交換を通じて、これまで市で取り組んできた産業政策の成果を振り返るとともに、今後の産業政策の在り方を考える機会となりました。

- 1 テーマ：「ポスト製造業に向けた新たな産業政策について」
- 2 日時：令和3年1月29日（金曜日）13時30分～15時30分
- 3 会場：天童市役所1階会議室
- 4 主催：天童市
- 5 参加者：
 - ・天童市職員（市長、地方創生推進監、市長公室、産業立地室）
 - ・山形県職員（工業戦略技術振興課産業立地室）
 - ・天童商工会議所
 - ・東京大学大学院 総合文化研究科 教授 松原 宏 氏
 - ・内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局職員
 - ・経済産業省職員（地域経済産業グループ）
 - ・経済産業省東北経済産業局職員（企画調査課）

合計 19名

6 議事次第

- ① 天童市職員によるリーサス分析結果発表
- ② 有識者によるデータ分析と意見
- ③ 政策ディスカッション

(1) ワークショップ実施の背景

- 天童市は、昭和 29 年の合併以来、計画的な都市計画を進め、住宅地の供給を行うとともに、第 1 次、2 次、3 次産業をバランス良く振興してきた。
- 昭和 30 年代前半から企業誘致を積極的に行い、昭和 37 年には、県内に先駆けて「天童市企業誘致条例」を制定し、さらなる企業誘致に努め、昭和 45 年ごろから飛躍的に第 2 次、第 3 次産業の規模が拡大してきた。この流れを受け、昭和 47 年から切れ目なく市内に工業団地・産業団地の開発を進め、産業振興を加速させており、現在市内 8 か所目の工業団地として山口西工業団地の分譲を開始している。
- このような情勢の中、第 2 期天童市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定にあたり、これまで天童市が実施してきた工業団地整備と企業誘致について分析し、今後天童市がどのような産業構造を形成して行くべきかについて検討を行うとともに、現在造成・分譲中の山口西工業団地への企業誘致方針の検討を行った。

(2) 議論のポイント

【現状分析 天童市の現状と課題】

天童市はこれまで計画的な宅地供給と工業団地整備等による雇用創出を進め人口を増やしてきたが、2000年以降減少に転じ、近年は現状維持を続けている。

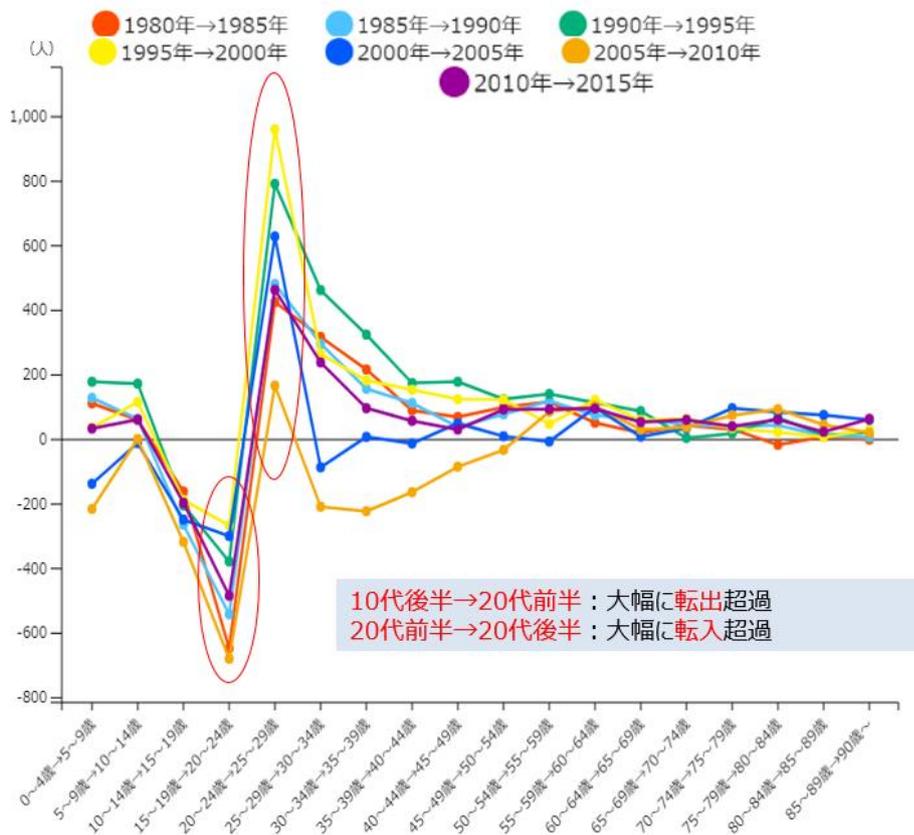
天童市の年代別人口動向を見ると、10代後半の転出が多く20代前半の転入が多い。両者の数字を比較すると、転出超過が見られる。高校卒業後に市外へ転出した若者が天童市へ戻らない事例が多いと推察される。天童市出身の県外在住学生へのアンケートでは、「天童市内に自分の希望に合う就職先が無い」または「自分の希望に合う企業があることを知らない」人の割合が高い。

天童市の産業は、様々な業種がバランス良く集積しているのが特徴。売上高、付加価値額で卸売・小売業と製造業の割合が高く、従業員数では特に製造業の割合が高い。

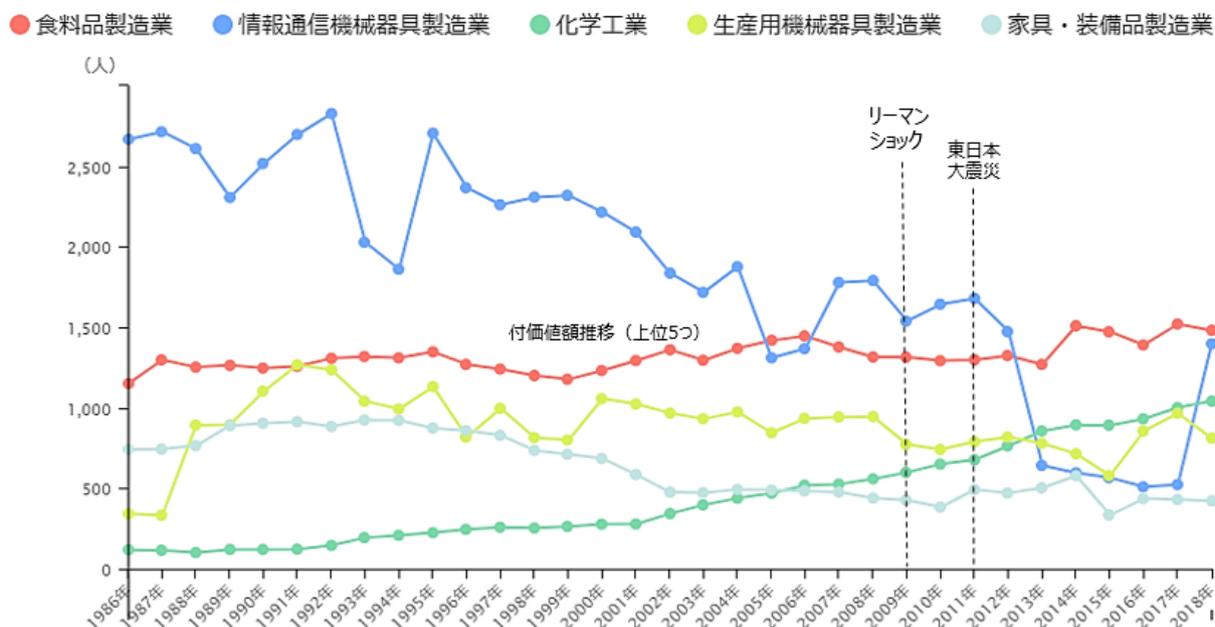
一方、多数の従業員数を抱える製造業をはじめとし、多くの産業で生産労働性が低い。結果として、雇用者の所得が全国平均より低い。

また業種によっては、誘致企業も含め、地域内企業間の取引が小さく、地域経済への波及効果が限定的である。ただし、市内に本社機能（研究開発等）や最終製品製造工場を有する企業については、地域内取引が多い傾向が見られる。

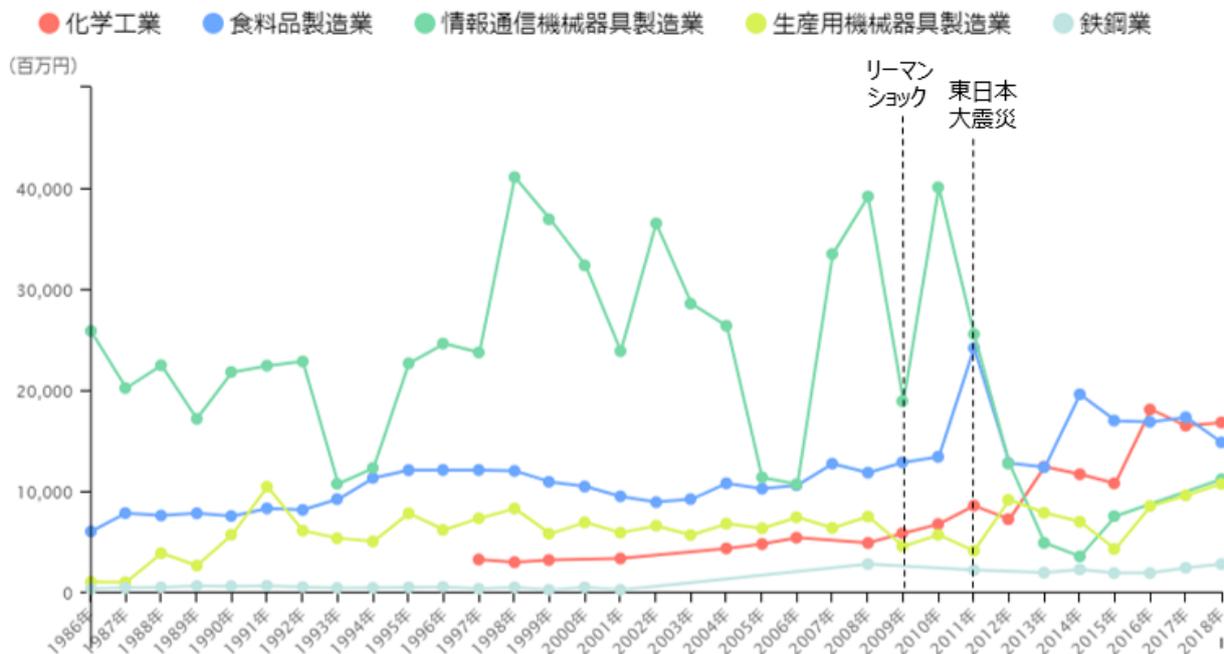
天童市 年齢階級別純移動数の時系列分析



常用従業員の推移（上位5つ）



付加価値額の推移（上位5つ）

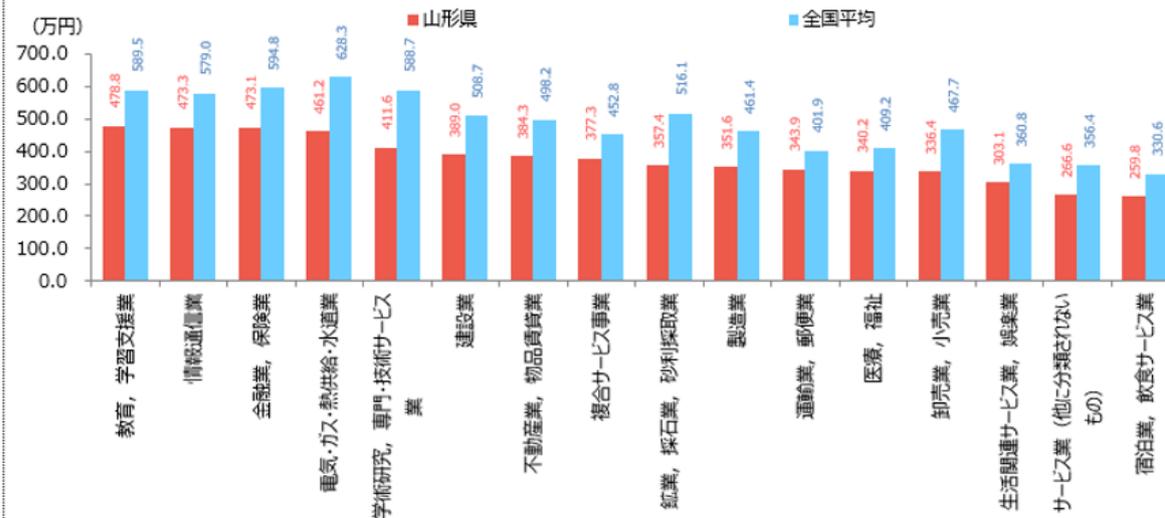


一人当たり賃金

雇用/医療・福祉マップ>一人当たり賃金 → [キ「グラフを表示」](#) (ダウンロードデータより作成)

- ・産業別に一人当たり賃金を比較します。
- ・また、全国平均との比較により、全国よりも賃金水準の高い産業・低い産業を概観できます。

2018年



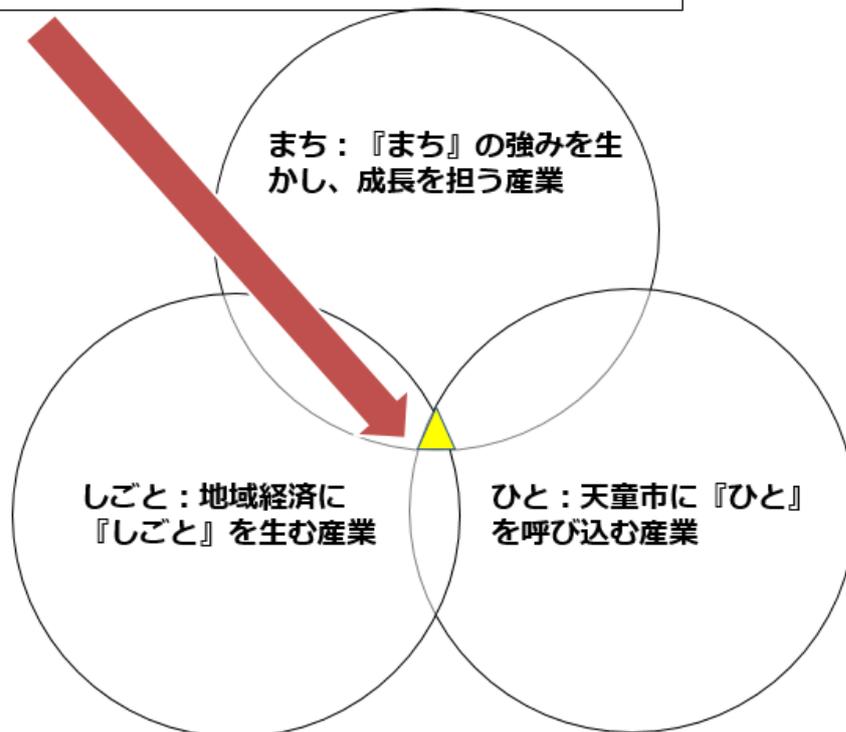
【出典】厚生労働省「賃金構造基本統計調査」

【施策提案】天童市まち・ひと・しごと総合戦略の視点から

●雇用の受皿として大きな役割を占める製造業の誘致を図る。特に、『ひと』を呼び込み、地域内に『しごと』を生み、『まち』の強みを生かし、今後の成長を担う業種を重点的に誘致する。

検討の方向性

◎ 3つに共通する業種はあらゆる面で「魅力的」
⇒誘致・育成の優先度が高い産業といえる。



●『ひと』を呼び込む産業

特に、若者や女性にとって魅力的な企業を誘致する。

⇒「給与賃金」、「福利厚生」、「雇用の安定性」「仕事と家庭の両立」を重視する傾向が高い。

●地域経済に『しごと』を生む産業

本社機能や最終製品工場を有する企業は、市内企業に対して一定の波及効果が認められるため、重点的に誘致を図る。

●「まち」の強みを生かし、伸ばす「しごと」

1次、2次、3次産業がバランスよく備わり、固い地盤、良質な地下水に恵まれた天童市の利点を生かし、精密製品系の集積を図る。

(3) 有識者によるデータ分析と意見

- 1975 年以降の全国における工場立地件数及び立地面積を見ると、バブル景気時と 2000 年代のいざなぎ景気時に増加する傾向にあったが、東北地方における工場立地件数及び立地面積を見ると、バブル景気時以降に全国の推移とは異なり立地件数の増加がみられない県がある。
- 地域別工場立地件数の変化を見ると、1985～89 年は地方における工業立地の最後のステージであり、近年は臨海部や大都市圏における立地が多い。業種別工業立地件数の変化を見ると、食料品工場の割合が増加する一方、地方の雇用を支えてきた電気機械やアパレル関連は減少傾向にある。
- 東北 6 県における業種別製造品出荷額を 1990 年と 2015 年で比較すると、秋田県を除き出荷額は増加しているが、内訳は大きく変化している。特に、電機の減少と化学の伸長が多く見られる傾向であり、岩手県や宮城県では業種転換が図られている。なお、山形県は業種の多様性と安定性に特徴がある。
- 東北地方における市町村別製造品出荷額と増減率を見ると、東北道の延伸とともに工場の立地が進んできたが、電機業等の衰退とともに、かつての工業都市における出荷額の大幅減少が目立つ。
- 山形県各市区町村における地域製造業の機能面の特徴を分析し、各自治体がどの程度工業都市化しているのかを確認すると、多くのケースで生産機能だけでなく研究機能を持ち始めていることが見て取れる。
- 従来型の企業誘致
 - 従来型企業誘致は行き詰まっている状況。他地域では戦略的な企業誘致の新展開について 3 つ掲げている。
 - ①既に立地している企業を重視
 - ②工場機能の進化を促進
 - ③成長産業を域外から誘致
 - 従来型から新たな戦略的立地施策を展開しているかが問われている。
- 工業立地の新たな視点
 - 従来型企業誘致から戦略的企業誘致へ転換していくことが重要（マザー工場化など）である。
 - 生産機能を充実するために、分工場の 2 次投資（生産機能拡大など）をすることが東北で見られる。2 次投資にフォーカスをあてて、勢いのある分工場の 2 次投資先として誘致を考えることも大切ではないか。
 - ウィズコロナの面で、「非接触ビジネス」に誘致のターゲットをあてることが重要である。
 - DX に対応した立地環境を整えて企業誘致でアピールすることが重要。

(4) ディスカッション

【議論の内容】

●人材の定着と活用

- ・地域のメリットを活かして地域に根付いてもらう。天童市内の面白い企業との共同開発や優秀な人材の取り込みが重要になってくるのではないかな。
- ・天童市の人材はどんな特性を持っているのか。若者たちがどのような仕事、専門性を求めているのか。人材の特性のアピールができれば良いのではないかな。
- ・地元の高校生が地域の産業などを学べる環境を形成してほしい。

●企業ニーズの把握

現在市で行っている企業ニーズ把握は重要である。さらに深い把握を行い、これを踏まえた支援策の検討をしてはどうか。

●地域内コンテンツの活用

誘致のみならず、将棋の駒等、既に天童市内に存在する魅力的なコンテンツのブランド力を向上させ、雇用や賃金など内部の産業を高めていくことも大切ではないかな。

●新たな産業の創出

山形、仙台⇄天童の都市軸（通勤通学など）が重要。特に『まち』の部分で天童に住居を置いて、住民のライフスタイルに対応した新たな産業の誘致と創出を強めていくことも重要。

●近隣地域との連携

産業振興については、天童市のみならず近隣市町村も含め、地域全体の特徴を踏まえた視点も必要である。

●山形県への近年の企業進出動向

近年の山形県への企業進出は横ばい推移。但し、従来の組み立て型から労働集約的ではなくなっている点に留意する必要がある。また、労働人口が減っている点も考慮する必要がある。

●関係人口について

関係人口を増やすことは企業誘致にも効果がある。

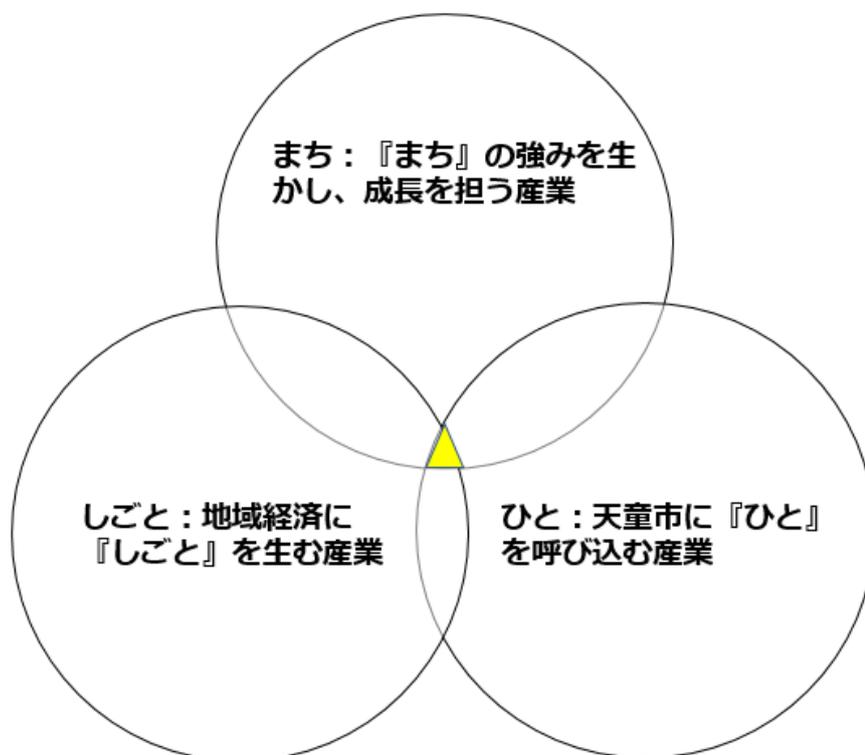
【今後の方向性】

天童市の人口維持という大きな目標の中で、魅力的な雇用の創出を進める。

前述の「ひと」「しごと」「まち」3つに共通する業種はあらゆる面で魅力的だが、一般的にはこの全ての条件を満たすのは大企業が多く、地方に誘致することは現実的に困難である。

3条件のうち、2条件を満たす企業に対しても積極的に誘致を行い、誘致後も行政が継続的に支援を行い、2次投資も含めて産業振興を図る。

また、学生期から市内産業のことを知る機会を設け、中長期的な視点から市内人材と産業との結びつきを作る施策を進める。



3条件のうち、2条件を満たす企業に対しても積極的に誘致を行い、誘致後も市が支援を行う。